

平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果(市の概要)

平成31年3月22日
鹿児島市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策（各国公私立学校においては取組）の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数(校)			実施児童生徒数(人)		
		本市	県	全国	本市	県	全国
小学校	5学年	78	515	19,855	5,405	14,781	1,048,613
中学校	2学年	39	233	9,965	4,796	13,641	984,961

本調査は、平成20年度から希望校により開始され、小・中学校の希望校の合計は、初年度72校、21年度83校であった。22年度からは国による抽出校になり22校、23年度は震災のため中止、24年度26校で実施した。25年度から国により全校が対象となった。

(3) 調査事項

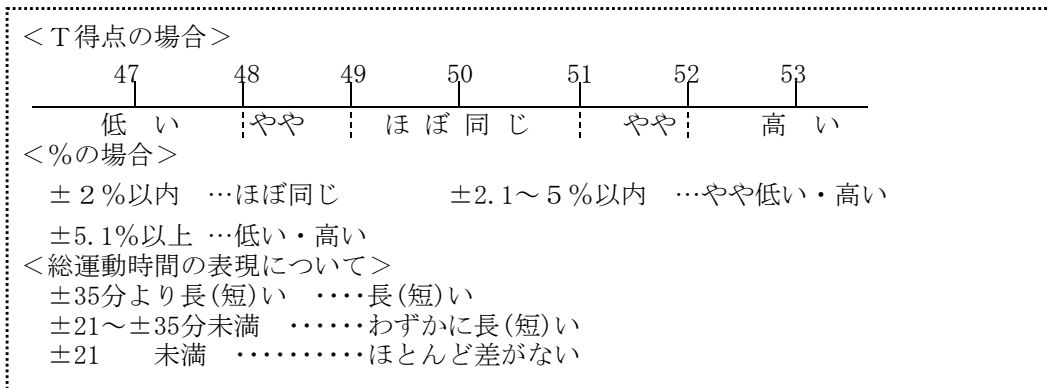
- ア 児童生徒に対する調査
 - (ア) 実技に関する調査（測定方法については、新体力テストと同様）
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(小学校)、ハンドボール投げ(中学校)
 - (イ) 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査
- イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等）

(4) 調査期間

平成30年4月から7月末までの期間

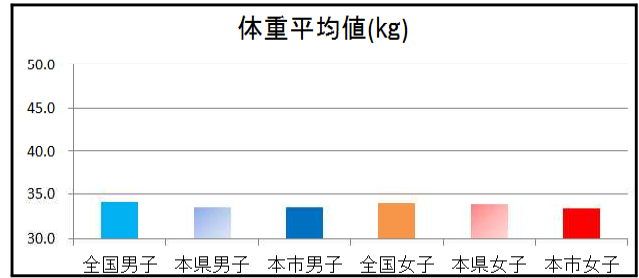
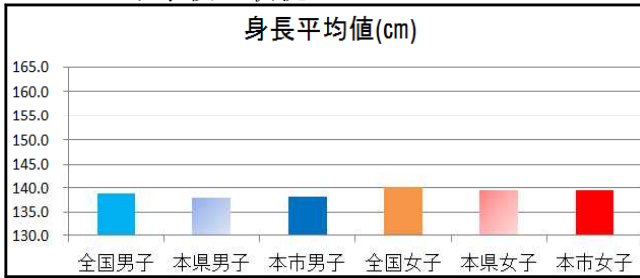
2 調査結果の概要（詳細については別添の調査まとめ「別紙1～5」を参照）

- ※ T得点とは「全国平均(50とする)に対する相対的位置」を示す。(T得点=偏差/標準偏差)
- ※ 全国平均等との比較は、以下を基に表現する。

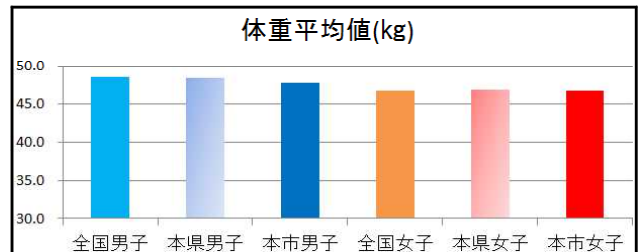
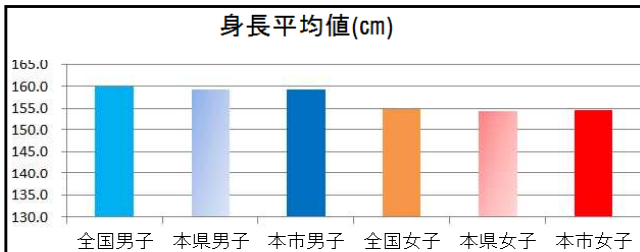


(1) 体格について

ア 小学校の状況



イ 中学校の状況

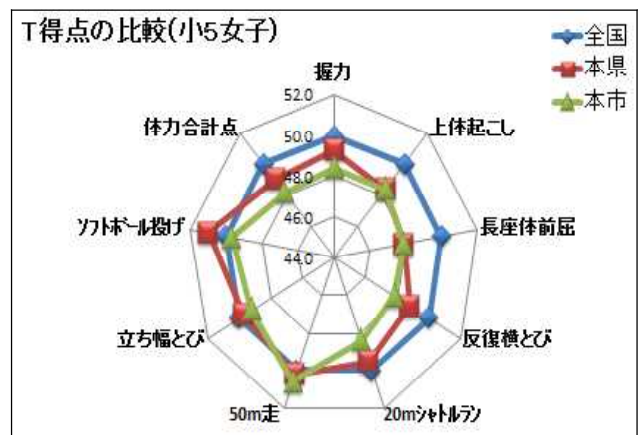
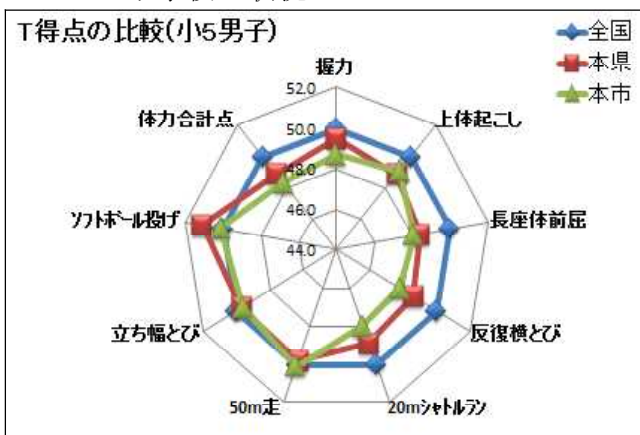


【全国平均との比較】

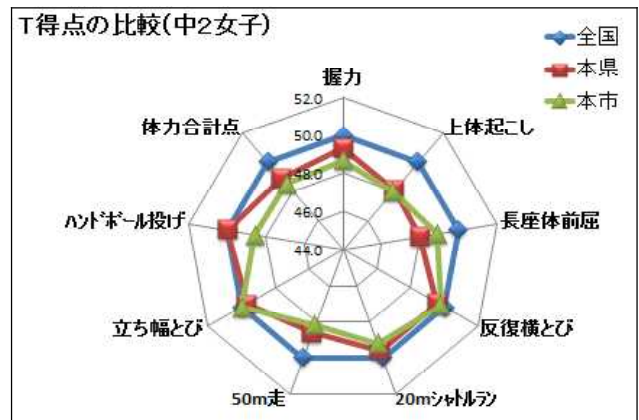
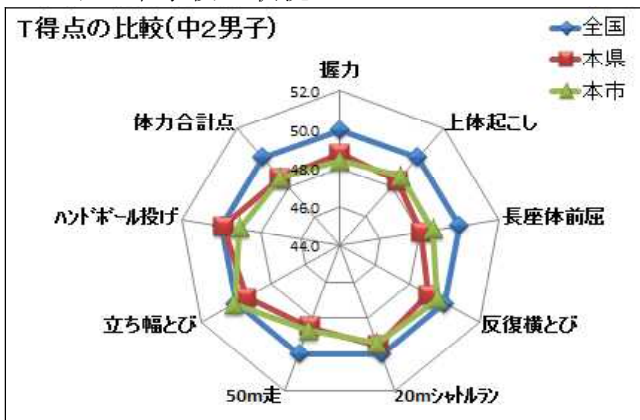
小学生については、男子は身長、体重ともにやや低く、女子は身長はほぼ同じで体重はやや低い。
中学生については、男子は身長、体重ともにやや低く、女子は身長、体重ともにほぼ同じである。

(2) 体力について

ア 小学校の状況



イ 中学校の状況

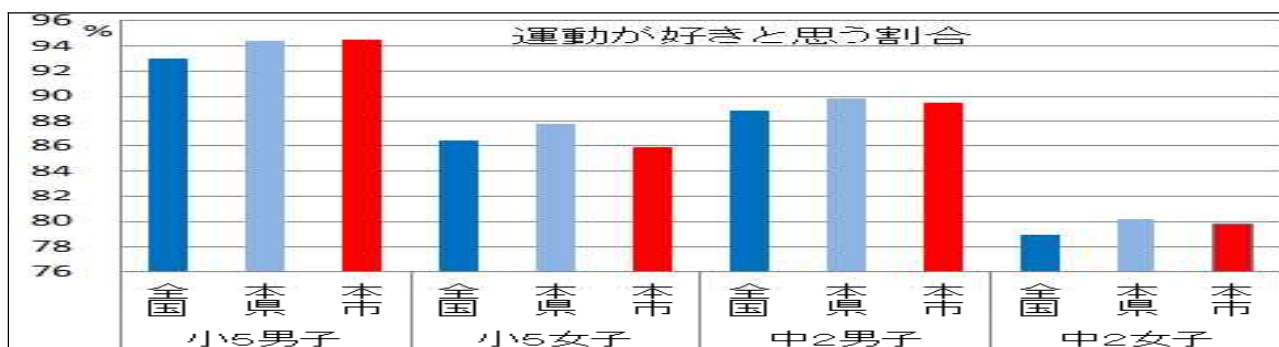


【全国平均との比較】

小学生の体力は、男子の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げと男子の上体起こしはほぼ同じであるが、その他の種目については低く、特に男女の反復横とび、男子の20mシャトルラン、女子の長座体前屈が低い傾向にあることから、体力合計点は男女ともにやや低い。
中学生の体力は、男女の反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびと男子のハンドボール投げはほぼ同じであるが、その他の種目についてはやや低い傾向にあることから、体力合計点はやや低い。

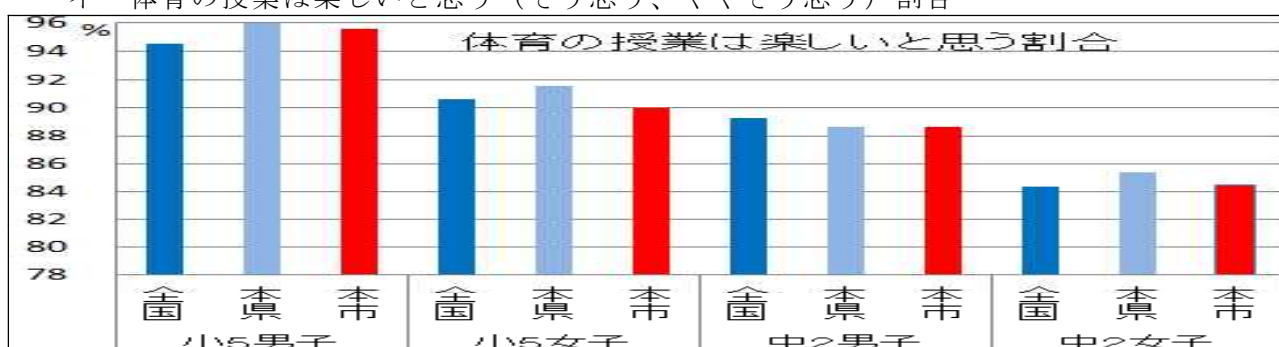
(3) 運動習慣等調査の結果について

ア 運動が好きと思う（好き、やや好き）割合



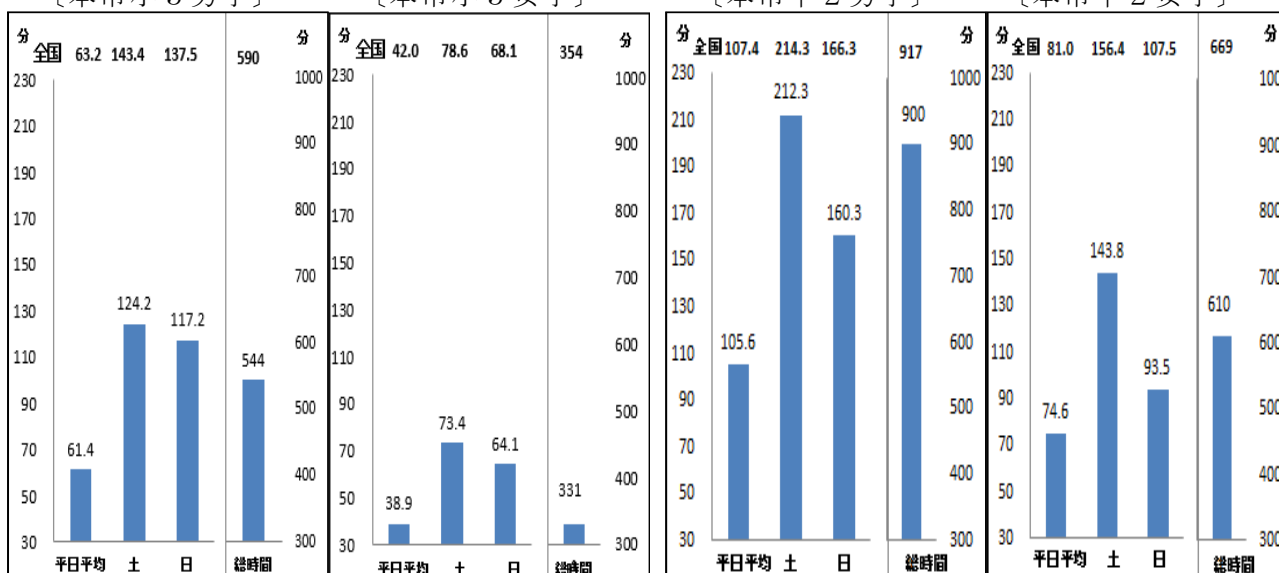
運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と答えた割合は、小学生と中学校男子は約9割、中学校女子は約8割となっており、全国平均とほぼ同じである。

イ 体育の授業は楽しいと思う（そう思う、ややそう思う）割合



「体育の授業は楽しい」について「そう思う」「ややそう思う」と応えた割合は、小学生では9割、中学生では8割を越えており、全国平均とほぼ同じである。

ウ 運動の実施時間（「体育の授業以外で、運動やスポーツを1日で何分くらいするか」）
 [本市小5男子] [本市小5女子] [本市中2男子] [本市中2女子]



【全国平均との比較】

1週間の総運動時間は、中学校男子はほとんど差がなく、小学校女子はわずかに短い。小学校男子と中学校女子は短い傾向にある。

平日の平均運動時間は、小学生、中学生ともに全国平均とほとんど差がない。土曜日、日曜日の平均運動時間は、小学校女子と中学校男子は全国平均とほとんど差がないが、小学校男子と中学校女子は短い傾向にある。

(4) 現状と課題について

体力合計点を全国平均と比較すると、小学生、中学生ともにやや低い。

種目別にみると、小学生では男女の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げと男子の上体起こしは全国平均とほぼ同じであるが、その他の種目については全国平均より低く、特に男女の反復横とび、男子の20mシャトルラン、女子の長座体前屈はT得点48以下であり、敏捷性と全身持久力、柔軟性に課題がある。中学生では男女の反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびと男子のハンドボール投げは全国平均とほぼ同じであるが、その他の種目については全国平均よりやや低く、特に筋力・筋持久力に課題がある。

運動習慣等について、体育の授業を除く1週間の総運動時間は、全国平均と比較して中学校男子はほとんど差がなく、小学校女子はやや短い。小学校男子と中学校女子は短い傾向である。また、「運動やスポーツをすることが好き」や「体育の授業が楽しい」とする割合は、ともに小学生では概ね9割を、中学生では8割を超えており、全国平均とほぼ同じである。

3 今後の対策等

(1) 学校における取組

ア 各学校においては、自校の実態把握を基に課題を明確にし、体力向上全体計画・指導計画により、課題の改善に対する方策の具体化を図る。

イ 各学校においては、自校の課題となる体力要素の向上に取組む「ちょトレ」（ちょっとしたトレーニング）運動に継続して取組み、その中のひとつとして、体力アップ作戦「一人で！二人で！サッサッ」への取組みを推奨し、課題である敏捷性の向上を図る。

ウ 体育授業では、運動の特性や技能の系統を踏まえた学習過程を工夫し、めあて・ねらいの明確化、振り返る活動及び思考活動を設定するなど、魅力ある授業づくりに努め、運動好きな児童生徒を育成することにより個々の運動機会の増加を図る。

エ 児童生徒一人一人の課題を基にした「個人カルテ」の作成と積極的な活用を通じた、児童生徒の主体的・継続的な運動の実践により、体育授業を除く1週間の総運動時間が420分以上を目指した教師の働きかけと見届けを推進する。

オ 運動を取り入れた生活習慣の定着を図るために、生活リズムや望ましい食習慣、睡眠などと関連させて、教育活動全体で指導していく。

(2) 家庭との連携

ア 家庭における運動機会の増加が体力に関係することから、児童生徒の体力の状況や課題等を把握できるよう本調査結果等について家庭との共有に努め、併せて土曜日や日曜日の戸外等での遊びや親子等での運動への取組みを推奨する。

イ 体力や健康は生活習慣と深く関連することから、生活リズムや食習慣などの改善について啓発を図る。

(3) その他

ア 各学校において、小学校5年生と中学校2年生の新体力テストの実施を継続し、体力に関する実態の把握、課題解決に向けた方策の具体化と継続した実践の推進を図る。

イ 体育実技研修会において、全ての小・中学校を対象に「力を発揮させる、正しい新体力テストの実施方法」について実技研修を行う。

ウ 各学校における、課題に関連する運動の選定による「一校一運動」や、「チャレンジかごしま」への積極的な取組への推奨により、運動に取り組む時間の増加を図る。

エ 「体力向上」研究協力校(明和中学校)、授業公開校(荒田小学校)の実践内容や研究成果等について、市内小中学校による自校化、体育授業への講師招聘などにより指導力の向上を図る。